ずいそう

40年を迎える「都市小屋―集」



久 武 経 夫

1974 年 5 月 7 日にオープンした交流サロン「都市 小屋—集」が、今年 40 年目を迎える。

「幻の日本酒を飲む会」が吟醸酒ブームの契機に、「トイレットピアの会」が「公衆トイレ研究会」での公共トイレの美化運動を経て「日本トイレ協会」に、病院を抜け出して「集」に来られていた手塚治虫を会長とする「日本昆虫倶楽部」、「ゴミニティ(散乱ゴミ収集等)」環境問題、「ロボット」に関連した研究会等、参集者の興味に応じて様々な会合が誕生した。

ニューメディア研究会はこの1月に301回となり、ICT等,新しいネーミングでの再スタートを模索している。当初は、要旨を業界誌に連載していたが、研究会の場での自由な発言を頂くために、内容の公開はしない方針とした。

同じく300回近い会合を重ねた「ICカード研究会」は、道路維持車両の稼働実績記録にICカードを活用する計画への対応に、印刷会社、機器メーカ、ソフトウエア技術者が集まった会合を契機に誕生した。その後、企業内システム、地域通貨、ETCの仕組み等、時の話題に応じたテーマの議論を重ねてきた。要旨は、「カードウエーブ」誌に連載されている。

「小惑星を捕獲する会」はユニークな会合で、当初は九州・博多の宇宙テーマパークスペースワールドの活用を検討する会として、宇宙に興味のある人々を集めて発足、その後小惑星の地球衝突を防ぐ方法を研究する会として、小惑星が存在する火星と木星の間にちなみ、水曜日を活動日として宇宙を研究する学者、宇宙関係のメーカー、宇宙国際法の関係者、宇宙葬儀を提案する会社、宇宙を目指すゼネコン、プラネタリウムのメーカー、宇宙オタクの方々などが集まり、「宇宙サロン」として活動を続けた。このサロンの特異性はフランスの科学誌にそのユニークさで取り上げられたこともある。その後このサロン活動はNPO法人として発展、最終的には岡山県の美星町に小さな天文台を持つまでになった。活動の報告として「アステロイド」という冊子を発行。

組織の利害に捉われず技術者・有識者として、産官 学の議論の場として認知されている。

「道の駅」、「まちの駅」、「川の駅」、「健康の駅」、「健寿の駅」も「集」の研究会から発した発想で、今やドライブの大きな楽しみともなった「道の駅」は公的な施設へと発展し、2013年10月全国に1,014駅も存在するようになった。

「健寿の駅」は、高齢者の歩行習慣と正しい歩き方を目的とし、町田市、気仙沼市等で展開している。今般、西新橋の「都市小屋―集」にも、歩数計データ蓄積と解析、血圧と体重測定システムを設置した。運動不足の都心勤務の方、ご参加を。

【駅】運動の中心を担っている地域交流センターは、森民夫長岡市長、久住時男見附市長を中心とする提言・実践首長会を「集」で開催、お蔭で「集」の冷蔵庫には全国の銘酒が集まってきている。

その他,最近始まった会合に,「これからの日本を考える懇談会」,「情報化施工研究会」,「日本の歴史と文化を語る会」,「日中友好サロン」,「22世紀を語る会」等がある。

東北震災支援を契機に始まった「被災地の酒を楽しむ会」は5月で36回目となる。被災地支援をされる方々の話題提供を契機に、ボランティア参加される等、現地情報満載の呑み会である。この酒を楽しみに、毎回参加者が増えている。

第1回「情報化施工研究会」の立命館大学建山和由 教授の講演要旨は、社団法人国土政策研究会(岩井國 臣会長)の機関誌(2013年 No.33)に掲載された。

「これからの日本を考える懇談会」は,「日本の防災を考える」と題して,「建設物価」に連載を予定している。

隔月開催で、38回目を迎える「サロンコンサート」、「集」に事務局を置く日本メンデルスゾーン協会(三田雅宏理事長)の会合は、研究会を横断したクラシックファンの交流の場となっている。

研究会は、参加者を限定したクローズドな会もあるが、原則、何方でも参加できるオープンな会としている。職位を忘れた自由人として在り方を論じる場としての立ち位置は守っていきたい。

年を重ねて、参加者の高齢化が問題となっていたが、 年功序列から能力評価への移行が進み、個々の知見や 人脈を磨きたい若者の参加が増えている。「集」を継 続する基盤が出来てきた。

今年5月には、40周年記念を祝う盛大なパーティーを予定しているので、皆様のご参加をお待ちしています。集の活動に興味をお持ちの新しい方々を御連れ下さるようお願いいたします。http://www.shu-yu.net/